

特殊評価（２）

屋外歩行の評価

地域における屋外歩行への影響

～銀閣寺交差点における歩行調査～



- ・ 対象者：
 - 外来リハ通院の脳卒中9名（男5名、女4名）
 - 年齢：52～80歳（平均66.3±7.6歳）
 - 発症からの期間： 8ヶ月～13.1年（平均5.2年）

- ・ 方法：
 - 1) 院内10m 普通歩行と最大速度歩行の速度測定
 - 2) 銀閣寺交差点で横断歩道を歩行する時間を測定
(雨天を除く平日の午後1時～3時の間に実施)

- ・ 歩行者数と通行車両数を確認する目的で周辺写真を撮影

- ・ 京都府警察本部交通規制課および警察署の協力を得て 歩行者用信号機情報を調査

結 果：

- ・ 院内普通速度歩行 26.8 ± 12.3 m/min
- ・ 院内最大速度歩行 37.9 ± 19.5 m/min
- ・ 横断歩道 29.3 ± 16.4 m/min
(普通速度歩行の109.3%、最大速度歩行の77.3%の速度)
- ・ 信号時間内に横断し得た対象者は9人中2人だけ

考 察：

- 普段よりも速度を増して歩行する能力が問われる
- 歩行者数、車両交通量等も影響するものと推察
- TI群であっても歩道横断には必ずしも十分でない

文献

黒木裕士：障害者の道路横断に関する実践的調査研究
および電子マップの作成. 第33回三菱財団事業報告書
平成14年度, pp538-539, 2003